



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・PDFファイル取り込み
- ・画面共有
- ・提出BOX「比較」

Hint

1人ずつ送る方法の他に、クラスBOXを使う方法があります。カードに連番をつけておき、クラスBOXに保存し、子どもが自分の出席番号のついたカードをボードに取り出して活用します。

Hint

友だちの画面をカメラで撮影して、トリミング・リサイズする方法もあります。

1 対話で理解が深まる！ 図形のなかま分け

個別学習としてプリントで「三角形その他の図形のなかま分け」をした後に、「オクリンク」を使って協働学習をすると、子どもたちの理解が深まります。

#意見交流

八幡市立中央小学校 水谷智明先生

BEFORE

- ・協働学習で対話を引き出しづらい
- ・プリント学習のみはわかった気になりがち

AFTER

- ▶ タブレットを使うと対話が盛り上がる
- ▶ 習ったことを即使うから理解がより深まる

事前に準備したカード

Step 1 **授業前**
クラスの人数分の異なる図形が描かれたカードを用意。各自に1枚ずつ送る。

Step 2 **授業開始時**
子どもは送られてきた図形を画面に映し、教室を歩き回って同じ仲間の図形を持つ子どもとグループになる。

Step 3 **対話**
グループで、同じなかまにした理由を話し合う。最後に、全員の図形カードを代表者がスクリーンショットで画像化し、理由も書いて「提出BOX」へ。

Step 4 **まとめ・全体**
先生は、各グループカードをモニターに表示し、ほかのグループの考えや図形の特徴などを押さえ、単元を整理。

まとめ用のカード

子どもが提出したカード

Attention

画像のロックをしておきましょう

Attention

画像は最大10枚までおけます。

ムーブノートで実施するなら

まとめ用のカードを作成したら、「授業を開始」を押します。その後で図形のカードを作成し、個別に配付することで同様の授業を実施できます。

※図形のカードを作成後に「授業を開始」を押すと、全てのカードが子どもたちの私のノートに表示されてしまいますのでご注意ください。



詳しくは Webでチェック!



分類をさせて気づきを促す授業なら算数以外でも使えます!



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・スライドショー
- ・画面共有
- ・提出BOX

Hint

授業ごとに提出BOXを切り替えて提出させる際は、「提出BOX名」を授業日などわかりやすものにすると良いです。

Attention

机間巡視をされている際に先生端末がスリープになり、子ども同士で送りあいできなくなることがあります。
活動の間だけ、画面左下の授業名をタップして、送り合いの制限を「いいえ」にしておくと良いです。
 ※活動終了時に「はい」に戻しておくとも勝手な送り合いを防げます。



まとめる力がどんどん身につく 担当制調べ学習

「日本国憲法」についての協働学習で、子どもたちが資料をつくりやすい「オクリンク」を使用。テーマ担当を決め調べて共有することで、「憲法」の概要をつかんでいきました。

#学び合い

相模原市立南大野小学校 西岡裕太先生

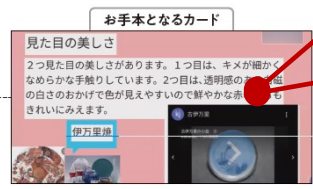
BEFORE

AFTER

- ・相手に伝える資料を説明する際、イメージがわきづらい
- ▶▶ 実際に子どもがつくった見本でイメージがわき **ポイントが理解しやすい**
- ▶▶ 目的や役割があることで責任を持ちより **主体的**に取り組む

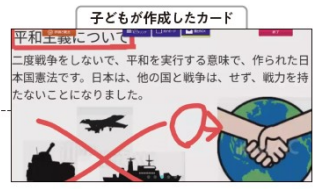
Step 1

全体
 授業のねらいや流れを伝えた後で、他学年の子どものお手本カードを提示。先生は、お手本のどこがよいのか説明。



Step 2

個別
 班の中でテーマの担当を決め、各自で調べたことをカードにまとめる。複数時数にまたがる場合も、授業ごとに「提出BOX」へ提出させる。先生は進捗確認ができ、子ども同士もほかの子のカードを見ることで気づきにつながる。



Step 3

班別
 すべての資料ができたら、グループ内で共有し、自分の資料を説明。全員で、「日本国憲法」とは何かを考え、全体像を把握していく。最後にほかのグループと比較して振り返る。



タブを分けることで、最初の授業からの提出物の変化も見る事ができる。



ある程度子どもたちの裁量に任せることで単元理解だけでなく伝え方やまとめ方が工夫され、教科書に載っていないことまで意欲的に調べ始めました！

Attention

画像は最大10枚までおけます。

Attention

提出BOXはカードが上書きされる機能になっています。複数の提出BOXを受付中にしておく場合は、切り替えタイミングにご注意ください。

Attention

「提出BOXを切り替える」という操作です。



ムーブノートで実施するなら

私のノートにお手本のカードを置き、カード右上の「鍵」を使ってカードのロックをします。さらにわかったことをまとめる白紙のカードを1枚置いて「授業を開始」を押すことで、同様の授業を実施できます。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・ペン・消しゴム
- ・提出BOX

Hint

配信したカードを誤って子どもが削除してしまった時のために、カードBOXに同じカードを保存しておくことで、子どもが自己解決できます。

3 自由な表現で興味が高まる 実験の予測

実験予測を頭の中で考えるだけでなく、表現することでより主体的な実験ができます。図や矢印を使って気軽に考えをアウトプットできる「オクリンク」が有効です。

#意見交流 #直感的操作

東京都立小学校 H先生

BEFORE

- ・言葉で表現することがニガテな子が多い
- ・自由な発想がうまれづらい

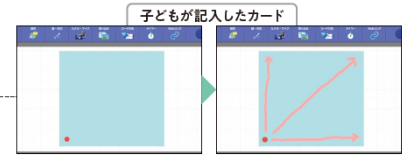
AFTER

- ▶ 言葉と図解で考えることで**積極的になる**
- ▶ 予測の全体共有で**自然な対話活動に**

- 理科
- オクリンク
- Step 1 [授業前]**
先生は、異なる3つの条件を図で示したカードを作成し、送付する。
- Step 2 [個別]**
子どもたちは、送られてきた3枚それぞれのカードに、予測をペンで記入し、「提出BOX」へ提出。
- Step 3 [まとめ・全体]**
モニターに「提出BOX」を映し、全員のカードを一覧で映しながら、子どもたちは考え方を発表。図として見えていることで、ほかの子の考えに興味を持てる。



左:①四角い金属を左下から温める / 中:②四角い金属を中心から温める / 右:③形の異なる金属を左下から温める



①の条件で予測をしたカード。



①の条件における予測を示したカードが出され一覧に。



全員の考えが見えることで、「〇〇さんの考え方を聞いてみたい!」という積極的な発言も出てきます!

Attention

画像のロックをしておきましょう

Hint

カードがある程度提出されたら、「全ての提出物を子どもに公開」をONにします。

Attention

提出BOXは後から出したカードで上書きされる機能になっていません。提出BOXは条件の数だけ「受付中」にしておきましょう。この時、操作ミス・トラブルを最小限にするために、BOX名をわかりやすく変更しておくといいです。

ムーブノートで実施するなら

条件や観点ごとにシートを分けてカードを準備すると、同様の授業が実施できます。条件や観点が5つ以上の場合は、広場をわけることで条件や観点の見分けが付きやすくなります。



✧ 使用している主な機能 ✧

・スタンプ集計

Hint

スタンプの種類を絞っておくことができます。

ふたばメニューの「プロパティ」から、詳細設定を選択し、「共通」の「挿入スタンプ」から、「全て選択解除」を押し、表示させたいスタンプ画像のみ選択しておきます。

最後に、画面下部「更新」を押すと、選択したスタンプのみが表示されます。



Attention

子どもがカードを再度広場に出しても上書きされません。不要なカードがある場合「作るモード」にして、子ども自身で自分の不要なカードを削除させると良いです。※子どもは自分のカードしか削除できません。



改善点が具体的にわかる座標軸の相互評価

4

「資源や環境を大切にするために私たちができること」についてのグループ発表の場面で「ムーブノート」を使用。ただ聞く→感想を言うだけでなく、「スタンプ」を活用した全体の評価・集計で改善点が明確になりました。

#学び合い #スタンプ機能

新宿区立柏木小学校
高橋蔵匡先生



BEFORE

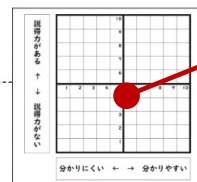
AFTER

- ・発表の評価は漠然としがち
- ・発表の改善ポイントがつかみづらい

- ▶▶ 座標で表すことで微妙なニュアンスを表現
- ▶▶ スタンプ集計とコメントで改善点が具体的にわかる

Step 1 [授業前]

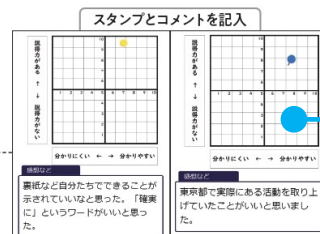
パソコンソフトで、座標軸を作成した後、画像化。「ムーブノート」の「スタンプ」ボタンからカードに図版を取り込み、コメント記入欄もつくる。



事前に作成する座標
パソコンで作成することで、ラベルが変更しやすい。

Step 2 [グループ発表]

子どもたちはグループをつくり、タブレットや手書きでテーマに関するポスターを作成。



スタンプとコメントを記入

裏紙など自分たちでできることが示されていいと思った。「確実に」というワードが良かった。

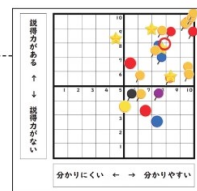
深所帯で裏紙にある活動を取り上げていたことがいいと思いました。

Step 3 [全体で評価]

「説得力」・「分かりやすさ」の軸で、それぞれの発表に「スタンプ」を押しに行く。コメント欄に、グループ発表がよりよくなるための助言も記入。

Step 4 [評価と振り返り]

子どもたちの「スタンプ」を集計し、全体の印象を把握。自分のグループへの助言とほかのグループが評価された点を確認し、修正点を話し合う。発表資料を修正し、完成。



スタンプで評価



相互評価をすることで、目的や意図に応じた観点が得られ、伝えたいことが明確になっていきます！

Attention

スタンプ画像を「位置を固定」しておきましょう。



Hint

グループごとに広場を変えてカードを提出することで、グループごとの評価をすることが可能です。

📧 オフリンクで実施するなら

集計することはできませんが、同じ画像をカードに貼って、ペイントで任意の場所に点を打つことで同様の授業を実施することができます。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・ペン・消しゴム
- ・「みんな」から送り合い
- ・提出BOX「比較」

5 全体共有で対話を生み出す 立式・考え方の共有

3年生の算数の1コマの授業で「オクリンク」を使って、数量の関係を図で表し、考える力をつける協働的な学びを進めました。図解なので気軽に自由に入力でき、共有のしやすさによって意見交流が自然に発生しました。

#一斉共有 #意見交流

練馬区立大泉第四小学校 原 裕貴先生

Hint

配信したカードを誤って子どもが削除してしまった時のために、カードBOXに同じカードを保存しておくことで、子どもが自己解決できます。

Attention

机間巡視をされている際に先生端末がスリープになり、子ども同士で送りあいできなくなることがあります。

活動の間だけ、画面左下の授業名をタップして、送り合いの制限を「いいえ」にしておくと良いです。 ※活動終了時に「はい」に戻しておくとなかなか送り合いを防げます。

BEFORE

- ・個別で考えるだけでは考えが広がりにくい
- ・アナログの場合、同じ図を配るなど非効率

AFTER

- ▶▶ 友だちの考えとの**比較や再考**をすることで考えが深まる
- ▶▶ 自由に表現でき**すぐに人と共有**できる

Step 1 [授業前]
2本の物差しを使って長さを測る課題を解くための図を入れたカードを作成し、各自に配付する。

Step 2 [個別]
自分の考えと解答をペンで書き込む。書いたり消したり何度でもできるので、多くの子どもが伝えたいことの整理ができ、多くの児童に伝わりやすくなる。

Step 3 [全体]
全体表示をして、既習事項を生かした考えのよさに注目させる。また、ほかの人とタブレットを見せ合いながら自分の考えを説明したり、自分とは違う考えを聞いたりする。お互いにより考えのカードを送り合ったり、教え合ったりする。

Step 4 [まとめ・全体]
最後にクラス全員のカードを一覧で見せながら、考え方を先生がまとめていく。

色を変えたり線を消したりして自由に表現できる。

紙ではできない全体表示をすることで、友だちの意見を聞きたいという意欲が高まり、対話につながります。

Attention

画像のロックをしておきましょう

Hint

カードがある程度提出されたら、「すべての提出物を子どもに公開」をONにします。

Hint

友だち同士で送り合う際、届いたカードは同じ場所に重なって表示されるので、届いたカードをずらして他に届いていないか確認させるとよいです。

ムーブノートで実施するなら

画像を「最背面に固定」して、課題のカードを作成した後で「授業を開始」を押すことで同様の授業を実施できます。

※カードに置く画像を1つにまとめてから挿入するとデータサイズを縮小できます。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・スライドショー
- ・カードの色
- ・「みんな」から送り合い

Attention

提出BOXは後から出したカードで上書きされる機能になっています。
提出BOXは授業シーンの数だけ「受付中」にしておきましょう。
この時、操作ミス・トラブルを最小限にするために、BOX名をわかりやすく変更しておくが良いです。



Hint

「赤」「青」にするという指示では、カラーパレットのどの色を選ばよいか迷うことがあります。
あらかじめ赤と青のカードを配信しておくが良いです。

クラス全員がテーマを自分ごとに！ 大臣なりきり法案発表

6

大臣についての学習で、「自分が〇〇大臣になったら何をするか」というテーマで発表。国における役割や求められていることを主体的に考え、政治への興味・関心も高まります。

#一斉共有 #意見交流

BEFORE

- ・知識・暗記のみだと興味がわきづらい
- ・ただ発表を聞くだけでは自分の考えがもたづらい

AFTER

- ▶ 大臣になりきることで**自分ごと**として考えられる
- ▶ 賛成／反対の決定と理由を**求める**ことで**能動的に参加**できる

寒河江市立醍醐小学校 小関直幸先生

Step 1 [個別]
国務大臣の役割などを学び、自分がなりたい大臣を選ぶ。「国務大臣名」と「調べた省庁の仕事」、「実施したい法案」の3枚のカードを作成する。

Step 2 [全体]
クラス全員の前で、カードを画面に映しながら一人ずつ発表する。発表された法案に、賛成＝青、反対＝赤のカードをつくり、「提出BOX」へ提出する。理由も明確にして、自分の意見を伝える。

Step 3 [まとめ・全体]
授業の最後に、紙のノートに振り返りを記入。その際、「国民の生活が豊かになるか」という観点を提示し、右の「振り返り項目」にそって記述。

子どもがカードで発表している様子

国会に提出して立派にする。調べたものをそのままプレゼンスライドで発表。

投票後の「提出BOX」

賛成が反対かを決定する活動を設定することで、答弁しづらい質問が必要感が減る。

振り返り項目

- ・友だちの考えに納得できたか。
- ・友だちの考えは、実現可能か。
- ・自分の学びについて、
どういう広がりや深まりがあったか。

Attention

オクルボタンの「みんな」から発表者に送ります。

Hint

友だち同士で送り合う際、届いたカードは同じ場所に重なって表示されるので、届いたカードをずらして置くようにするとよいです。

Hint

紙のノートに書いた振り返りをカメラで撮って提出BOXへ出すと先生の確認も容易になります。

ムーブノートで実施するなら

「国務大臣名」「調べた省庁の仕事」「実施したい法案」を書くカード①と、まとめて使用する「賛成」「反対」の選択肢のカード②を準備します。
カード①はみんなの広場に提出させますが、カード②は発表時に発表者の出席番号の広場に参加して、選択肢のカードを広場に出すことで、同様の授業を実施することができます。



「ゲーム1日1時間法」・「ゴミ取りで得する法」などユニークな法案が出て、楽しみながら政治への理解を深めることができました。

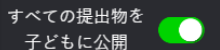


✧ 使用している主な機能 ✧

- ・カメラ
- ・提出BOX
- ・ボードペン

Attention

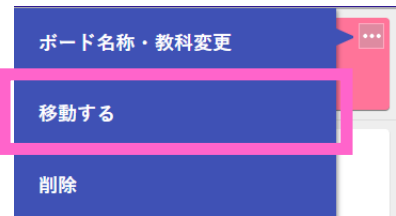
提出BOXを使っています。
カードをタップして拡大させた状態で、ボードメニューの「ペン」を使ってアドバイスを書きこみます。一覧画面に戻しても書きこんだ内容は残り、子どもたちからも確認することができます。



▲「すべての提出物を子どもに公開」をONにしておくことで他の人へのアドバイスも参考にできます。

Hint

授業の続きをおこなう際は、ボードを移動させると子どもたちが間違っていて異なるボードに入ることありません。



▲「移動する」を選択して任意の時間割にドラッグするとボードを移動できます。

7 納得がいく作品づくりにつながる！ 事前フィードバックと工程記録

図工の授業で複雑な工程が必要な作品は、つくる前に見直しを立てることが大切です。着手前のやり取りや、各工程での工夫点を残すために、「オクリンク」を使いました。

#蓄積 #ポートフォリオ

新宿区立富久小学校 岩本紅葉先生

- BEFORE**
- ・工程を把握していないと時間内に完成できない
 - ・完成まで時間がかかり工夫点を忘れてしまう
- AFTER**
- ▶ 事前のアイディアスケッチとアドバイスで **注意点がわかる**
 - ▶ **プロセスの記録**で全体を通した工夫を振り返る

Step 1 [個別]
子どもたちは、作品イメージと工程のアイディアスケッチを撮影し「カードBOX」に提出。先生は、手書きのアドバイスを各自に送る。

Step 2 [制作]
自分のアイディアスケッチと先生のアドバイスを見ながら、一気に粘土で形をつくる。

Step 3 [記録]
各工程の最後で写真を撮り、「オクリンク」にためていくことで、粘土の色が変わっていく様子など全体の流れを視覚化、深い振り返りができる。

アイディアスケッチ

時間内で形成

各工程の記録

自分の作品を忘れず、取り間違いも防ぐことができる。



プロセスが写真でたまっていくことで、各工程でこだわった点などを思い出やすく、より深い振り返りにつながります。

Attention

カメラを使用する際に「カメラの初期化に失敗しました」と表示される場合があります。端末の設定により、対処が異なりますので、詳細はこちらをご確認ください。

ミライシードファンサイト「よくあるご質問」

◀ Google Chrome

◀ Microsoft Edge

◀ Safari

ムーブノートで実施するなら

白紙のカード1枚を私のノートに作成して「授業を開始」を押すことで同様の授業を実施することが可能です。複数の工程を撮影する際は、カードを長押ししてコピーし、そのカードで撮影すると良いです。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・提出BOX
- ・カードの色

Hint

配信したカードを誤って子どもが削除してしまった時のために、カードBOXに同じカードを保存しておくことで、子どもが自己解決できます。

Attention

提出BOXは後から出したカードで上書きされる機能になっています。
提出BOXは授業シーンの数だけ「受付中」にしておきましょう。
この時、操作ミス・トラブルを最小限にするために、BOX名をわかりやすく変更しておくといいです。



進捗把握で個別フォローが可能に 調べ学習テンプレートと振り返り

8

#一斉共有 #個別最適

BEFORE

- ・つながった文章を書くことが難しい
- ・子どもの進度に合わせたフォローがしづらい

AFTER

- ▶▶ 項目に沿って記入することで、**作文が可能**に
- ▶▶ **得意・ニガテに合わせた学び方**ができる

相模原市立新宿小学校
和田愛莉先生



Hint

「Webリンク」で調べたページへのリンクが挿入できます。



Attention

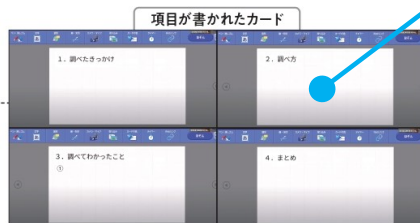
「すべての提出物を子どもに公開」をONにします。

すべての提出物を
子どもに公開

Step 1

[授業前]

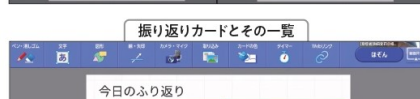
文章のひな型となるカードを用意。調べたきっかけや調べ方、わかったことなどの作文用のカードと振り返り用のカードをつくる。



Step 2

[個別]

子どもは、カードの項目に沿って入力し、「提出BOX」へ提出。入力が遅れている子には声をかける。



Step 3

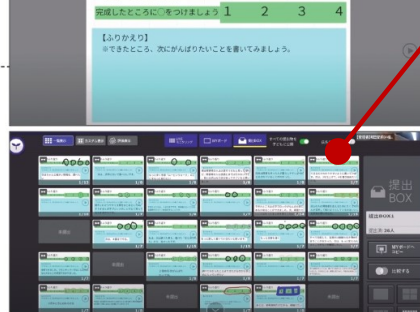
[再考]

早く終わった人は、友だちのカードを見て再考しカードの色を変え再提出。または、別テーマでもう一枚作成するなど自分のペースで進むことができる。

Step 4

[振り返り]

授業の最後に振り返り用カードも提出させる。一覧で見られるので、終わっていない人/友だちのカードを見て書き直した人など、声かけが必要な子どもがすぐに把握できる。



詳しくは
Webでチェック!



国語以外の授業でも、気づきや考えを
アウトプットする時間に使えます!



ムーブノートで実施するなら

項目ごとにラベル付きテキストボックスのカードを作成します。
振り返りに別のシートに選択肢を設置したカードを作成し、最後に「授業を開始」を押すと同様の授業を実施できます。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・名前の非表示
- ・並べ替え「自由に置く」

Attention

ムーブノートは子どもがカードを作成できません。
私のノートに白紙のカードを1枚準備してから「授業を開始」を押して授業を始めます。

Hint

「授業を開始」を押す前にカードを作成していなかった場合は、カードを作成して、オクルボタンから「子どものノート」を選び、「子ども・先生全員におくる」を押して配付してください。



Hint

思考の整理の仕方に慣れるまでは、ふたばメニューの「背景画像」から思考ツールを設定したり、ペンで広場を区分けしておくこともできます。

9 クラス全員でモヤモヤがゼロに! 匿名共有と意見交流

“考え方”を問う授業で使っています。これまでは、全体交流で取り上げるのは1時間に5-6人が限度でしたが、「ムーブノート」なら全員の意見を使って授業ができる。本時の課題提示～意見交流まで15分で完了します。

#意見交流 #一斉共有

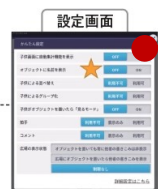
金沢市立鞍月小学校
田野 健先生

BEFORE

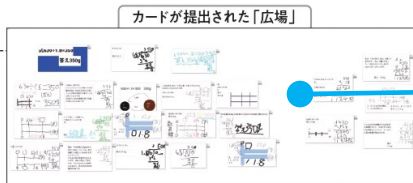
AFTER

- ・理解があやふやなままになってしまう子
 - ・発表者が固定化し主体的に参加できない子
- ▶▶ 児童同士でじっくり話し合うから理解が進む
- ▶▶ 匿名だから自分の考えを不安なく共有できる

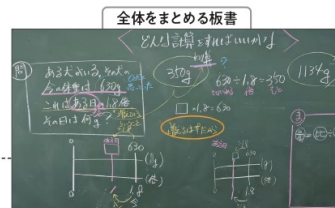
- Step 1 [授業前]
「広場」の設定を変える。「オブジェクトに名前を表示」をOFFにし、「自由に置く」設定に。匿名にすることで、自分の意見を出しやすくなる。
- Step 2 [課題の提示&個人思考(8分)]
課題に対する自分のアイデアをカードにまとめて、一人ひとりが分類しながら「広場」に出す。
- Step 3 [思考の整理(4分)]
「広場」に出されたみんなの意見を見ながら、自分のわかったこと・よくわからないことをノートにメモする。
- Step 4 [班内交流(3分)]
わかったこと・モヤモヤを班ごとに話し合い、疑問を解決したり理解を深めたりする。
- Step 5 [全体交流・まとめ]
班内で解決できなかったモヤモヤを共有し、クラス全体で解決し、まとめる。



「広場」の「かんたん設定」をすべて左に設定する。



左右で2つの意見に分かれたことが視覚的にもわかります。



先生が子どもたちの意見を整理し、考えを深めていく。



考えが分かれることが想定される授業であれば、学年・教科・単元問わず使えます。

Attention

並べ替えを「自由に置く」に設定すると、子どもは他の人のカードも動かせるようになります。
他の人のカードを動かさないように注意を促しておくが良いです。

Hint

全員で確認する場面になったら、ふたばメニューの「ロック」から、「全員見るモード」にすると、子どもがカードを動かせなくなります。



オクリンクで実施するなら

グループに分かれてカードを送り合い、各々のボード上でカードを並べて分類します。
ボードメニューの「発表」を使って提示しながら、どのように分類したか発表するという方法があります。



✧ 使用している主な機能 ✧

・キーワード集計「テキスト分析」

Hint

問題文を変更するだけで、他の授業でも活用できるカードなので、カードBOXに保存していつでも使用できるようにすると便利です。

Attention

テキストボックスを使用して、課題を入力すると、キーワード集計した際にその課題文に含まれる品詞もヒットします。
課題文は「問題文」を使用して入力しましょう。
※テキスト分析はミライシードに登録されている単語のみヒットします。



「テキスト分析」で対話が活性 共通解が見つかる意見交流

10

道徳の授業で、自分の考えを深めるために多くの意見に共通するキーワードを用いて授業を展開。「ムーブノート」のテキスト集計機能を活用しています。

#意見交流 #集計機能

相模原市立旭小学校
田屋裕貴先生



BEFORE

- ・正解のない問いには発言しづらい雰囲気がある
- ・先生主導型の授業になりがち

AFTER

- ▶ キーワード集計で論点が焦点化。意見交流しやすくなる
- ▶ 個人で考え、全体→班活動を経ることで子ども主体の意見交流が進む

Step 1 [授業前]

先生は「問い」と「答えを書く枠」があるカードを作成し、子どもたちへ配付。

Step 2 [個別]

子どもたちは、これまでの授業をふまえた自分の考えを記入し、「広場」に提出。

Step 3 [分析・発表]

先生は「テキスト分析」を開き、多くの子どもたちに共通しているキーワードを拾い全体の傾向を伝える。

Step 4 [議論・まとめ]

賛否やその理由を子どもに問いかけながらクラス全体で議論。さらにグループになり、取り上げたキーワードを使い、問いに対する考えを話し合いながら一文にまとめ発表する。それに対する個人の本音(納得解)を振り返って授業を終える。



道徳
ムーブノート

Attention

画像とテキストボックスを「位置を固定」にしておきましょう。



Attention

キーワード集計機能を使用中は子どもの操作ができなくなります。



オクリンクで実施するなら

テキスト集計はできませんが、問いを入力したカードを配付して提出BOXへ出すことで同様の授業を実施することができます。最終的な考えをカードに書いて提出する際はカードBOXを切り替えると良いです。

詳しくはWebでチェック!



拡散しがちな意見交流ですが、キーワードで焦点化することで子どもたちを揺さぶる発問が投げかけられます。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・ペン・消しゴム
- ・画面共有
- ・提出BOX「比較」

Hint

選ぶ時間を考慮し、子どもたちに合わせて乗り物の数を調整してください。
 ファンサイトに乗り物の画像素材があります。
 ページ下部 ▶
 「資料ダウンロード:授業事例として紹介された「自動車くらべ」に関するイラスト素材」



Attention

机間巡視をされている際に先生端末がスリープになり、子ども同士で送りあいできなくなることがあります。
活動の間だけ、画面左下の授業名をタップして、送り合いの制限を「いいえ」にしておくと良いです。
 ※活動終了時に「はい」に戻しておくとなかなか送り合いを防げます。



11 3ステップで多面的な視点が持てる自動車図鑑づくり

1年生の「自動車くらべ」で図鑑をつくります。まず個別探究から入り、共有を経て最後に個人で考えることで、異なる考えが組み合わさりよりよい学びが生まれます。

#意見交流 #学び合い

BEFORE

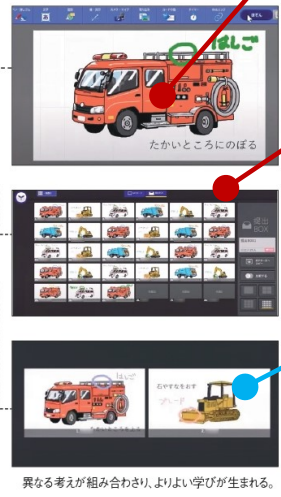
- ・個別の学びは孤立しがち
- ・考えを共有して終わりにになりがち

AFTER

- ▶▶ 孤立せずに個別の学びができる
- ▶▶ 他者の意見に触れ自分の考えを深められる

放送大学客員准教授 倉澤 昭先生

- Step 1 **[課題選択]**
子どもは、先生から送られてきた5つの異なる自動車の写真・説明から、好きな自動車を1つ選ぶ。
- Step 2 **[個別・調べる]**
画面上で選んだ写真を拡大したり、説明に線を引いたりしながら、各自動車の「しごと」と「つくり」についての文章を読み込み、自分だけの図鑑をつくる。
- Step 3 **[班別・まとめ]**
同じ自動車を選んだ人とグループをつくる。人数は子どもが決め、自分が注目したことなどを伝え合う。友だちの話を聞いて、自分の「自動車図鑑」の説明に加筆をする。
- Step 4 **[班別→個別→全体]**
今度は異なる自動車を選んだ人とグループをつくる。ここでも人数は子どもが決め、伝え合う。紹介シートを完成させる。タブレットを見ながら書くことで、学習したことを容易に思い出せる。最後にできあがった図鑑を画面共有して読み合う。



異なる考えが組み合わさり、よりよい学びが生まれる。



詳しくは Webでチェック!



自分で課題決定することで、子ども自身が学び方やスピードを選べるようになっていきます。

Attention

画像のロックをしておきましょう



Attention

「すべての提出物を子どもに公開」をONにします。



Hint

子どもも、提出BOXの「比較」機能を使用できます。



ムーブノートで実施するなら

乗り物の画像を貼り付けたカードを私のノートに置いて「授業を開始」を押すと、同様の授業を実施することができます。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・カメラ
- ・ペン・消しゴム
- ・提出BOX

Hint

低学年の場合、日付がかわるとボードを探すのも一苦労です。あらかじめ、ボードを実施日に移動しておくといいです。



▲「移動する」を選択して任意の時間割にドラッグするとボードを移動できます。

Attention

「すべての提出物を子どもに公開」をONにします。



この設定は、先生がオクリンクを退出してもそのままになっています。

蓄積と共有で深い観察に！ 植物の観察記録

12

植物の観察など過程を記録させる授業で、子どもたち自身が写真を撮り「オクリンク」にためていきました。植物の変化や成長過程が比較しやすく、細やかな観察につながりました。

#直観的操作 #蓄積

BEFORE

- ・アナログの記録では詳細まで比較しづらい
- ・個別で観察するだけでは観点が限られる

AFTER

- ▶ 写真で拡大や見返しがしやすく **細部に気づきやすくなる**
- ▶ ほかの人の気づきを見て **観察の観点が広がる**

小矢部市立大谷小学校
川村美波先生

Attention

撮影した日付をカードに書き入れておきます。複数時間にまたがって同じボードを使用するので、いつ撮影した写真なのか分からなくなってしまう可能性があります。

Attention

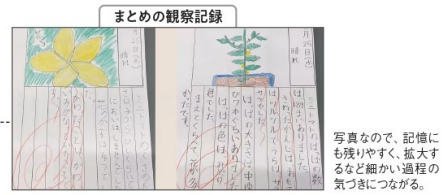
カメラを使用する際に「カメラの初期化に失敗しました」と表示される場合があります。端末の設定により、対処が異なりますので、詳細はこちらをご確認ください。

- Step 1 **【個別】**
- Step 2 **【協働】**
- Step 3 **【個別】**

Step 1 【個別】
子どもは、毎時間「オクリンク」の同じボード上で、同じ植物を撮影。気づきを写真の上にペイントで書き込んだり、別カードにまとめたりして「提出BOX」へ提出。

Step 2 【協働】
「提出BOX」は公開されているので、子どもたちはほかの人の写真やメモから、よりわかりやすい写真の撮り方や自分では気づけなかった発見を知る。

Step 3 【個別】
それまでの記録の蓄積やほかの人の観察メモから、授業の最後に手書きで観察記録をつくる。



観察当初からの大きな変化も前回からの小さな変化も両方つかみながら、ほかの人の観点も入り一歩進んだ観察記録になります。

理科

オクリンク

ミライシードファンサイト
「よくあるご質問」



◀GoogleChrome



◀MicrosoftEdge



◀Safari



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・カメラ
- ・提出BOX

13 相互評価で改善が進む 英語スピーチ

6年生の英語のスピーチを家庭で録画させ、授業内で共有しました。事前の見本提示と観点共有で、質問や相互評価も活発化し、スピーチ改善の姿勢につながりました。

#相互評価 #学び合い



BEFORE **AFTER**

- ・授業中しかお手本を聞くことができない ➡ 家庭でもお手本を**何度も再生**することができ、**試行錯誤**できる
- ・自分のスピーチを客観視しづらい ➡ **相互評価**によって自分では気づきにくいポイントに気づける

Hint

動画を見た後で、評価基準(観点)をいつでも確認できるように、カード化して全員に配付しておく方法もあります。

Hint

ジェスチャーがない場合は、「宝物」を「写真」から撮影し、「録音」を使って、スピーチを録音するという方法もあります。



- 英語
- オクリク
- Step 1 [全体]**
授業の冒頭で、クラス全体でお手本となるスピーチ動画を見る。子どもたちは授業のイメージをもつとともに、評価基準を把握する。
 - Step 2 [家庭・個別]**
家庭で、「自分の宝物」を紹介するスピーチを撮影し、「提出BOX」へ動画を提出。
 - Step 3 [班別]**
ペアや3人組で、動画を見ながら相互評価する。観点にもとづきよいと思った点や「もっとこうしたら...?」といったアドバイスをし合う。



ほかの人のスピーチの様子を見てよかった点を話し、次回の自分のスピーチに反映する協働学習につながっています。

Attention

カメラを使用する際に「カメラの初期化に失敗しました」と表示される場合があります。端末の設定により、対処が異なりますので、詳細はこちらをご確認ください。

ミライシードファンサイト
「よくあるご質問」



◀ Google Chrome



◀ Microsoft Edge



◀ Safari



ムーブノートで実施するなら

動画ファイルは、校内の共有フォルダ等に保存しておきます。ペアや3人組で動画を確認しながら感想やアドバイスをムーブノート上で交流することで、相互評価が活発になります。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・「みんな」から送る
- ・カードの色
- ・提出BOX

Hint

提出BOXの画面一覧はデフォルトでは先頭のカードが表示されるので、自分の意見を書いたカードを先頭に来るようにつなげると全体で比較しやすいです。

Attention

机間巡視をされている際に先生端末がスリープになり、子ども同士で送り合いできなくなることがあります。
活動の間だけ、画面左下の授業名をタップして、送り合いの制限を「いいえ」にしておくとう良いです。
 ※活動終了時に「はい」に戻しておくとう勝手な送り合いを防げます。



子ども主導で意志決定できる 学級会進行テンプレ

14

経験回数が少ない司会の役割。
「オクリンク」を使うことで話し合いの進め方を習得できるようにしました。

#意見交流 #授業外活動

BEFORE

- ・挙手・発表に時間がかかり意見がまとめづらい
- ・話し合いの経験が少なく司会が難しい

AFTER

- ▶ 事前の意見出し・色での意見表示で議論がスムーズに
- ▶ テンプレート使用で初めてでもできる

小矢部市立大谷小学校 大窪真也先生

Step 1 [授業前]

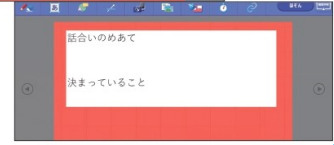
進行のひな型となるカードを用意。議題や提案理由、めあてなどを司会担当の子どもが入力し、意見を書くカードとつなげて全員に配付。各自意見を書き、学級会前に提出する。



議題を事前に送り、学級会前に意見を集めることで、しっかり議論ができる。

Step 2 [比較]

カードを使って議論のめあてなどを確認したうえで、「提出BOX」を確認。意見を事前に色分けしておくとう一瞬でクラスの様子がわかる。



Step 3 [焦点化]

どの意見も取り上げ比較し、意見交換を進めていく。



意見の傾向を知ったうえで話し合いを始められる。

Step 4 [決める]

お互いの意見を理解し合い、新しい考えをつくりたり条件をつけたりするなどして、提出された意見をもとに合意形成を行う。



子どもたちからもテーマや解決策を出すことができ、意識も変わってきています！

Hint

「全ての提出物を子どもに公開」をONにしておきます。



ムーブノートで実施するなら

「ラベル付きテキストボックス」を使って、色分けをすることで同様の授業を実施できます。(カード1枚にラベル付きテキストボックスを1つ)
 広場に出した際に、ラベル順に並べ替えて、意見の種類やキーワードでの集計を参考に、話し合いを進めることができます。



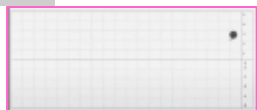
✧ 使用している主な機能 ✧

- ・スタンプ集計
- ・コメント
- ・拍手

Hint

この授業では集計をしません、スタンプ画像全体を範囲選択しておく、カード提出の有無を確認することができます。

範囲追加



▲「範囲追加」から画像全体をドラッグして選択しておきます。



▲スタンプ集計のタブを開き「名前ですとめる」を押します。



▲子どもの氏名一覧が表示されます。「(*件)」の数字が「0」でなければ、カードを提出していると言えます。

1 視覚化・交流で理解が深まる 心情変化グラフ

主人公の気持ちの変化をとらえるため、個別にグラフをつくってからクラス全体で比較。ほかの人の考えから、学びが深まります。

#意見交流 #スタンプ機能

加須市立加須平成中学校 村山俊介先生

BEFORE

- ・文章を読む・書くだけでは心情把握が難しい
- ・ほかの人の考えと比較がしづらい

AFTER

- ▶ 視覚化することで心情の変化をしっかりとつかむ
- ▶ 様々な考えがグラフでわかり**気づきにつながる**

Step 1 **授業前**

物語文の一場面を指定した問いとともに、グラフを記入するための横長の方眼フォーマットが入ったカードを用意する。

事前に準備したカード

「場面2から僕の気持ちの上がり下がりを読み取り、グラフにしてみよう」と問いを書く。

Step 2 **個別**

子どもは、心情の移り変わりを、「スタンプ」で表す。「ペイント」機能でスタンプをつなぎグラフにする。

グラフを作成したカード

右側の星印からコメント欄を開き、引用欄を記入する。

Step 3 **まとめ・全体**

心情が一番高まっている場面、一番下がっている場面はどこか、コメント機能に本文を引用して記入。「広場」に提出後、クラス全員のカードを見て比較、着眼点の違いなどを知り、より深く心情を理解する。

「広場」で一覧化

ほかの人の「カード」に対して、拍手で反応するなどアクションする。

詳しくは Webでチェック!



コメントに引用文を入れることで交流と共有が生まれ、主体的な学びにつながります。

Attention

スタンプ画像を「位置を固定」にしておきましょう。



Hint

スタンプの種類を絞っておくことができます。ふたばメニューの「プロパティ」から、詳細設定を選択し、「共通」の「挿入スタンプ」から、「全て選択解除」を押し、表示させたいスタンプ画像のみ選択しておきます。最後に、画面下部「更新」を押すと、選択したスタンプのみが表示されます。



オクリンクで実施するなら

集計することはできませんが、同じ画像をカードに貼って、ペイントで任意の場所に点を打つことで同様の授業を実施することができます。 ※この時、点と線は異なる色にするとわかりやすいです。



Y 使用している主な機能 Y

- ・提出BOX
- ・ボードペン

Attention

先生がオクリンクにアクセスすると「みんなへの送信」が可能になってしまうため、授業時間外にフィードバックを行う場合は、ボードメニューの「ロック」から「みんなへの送信」をロックしておく必要があります。

子供端末の制御 (以下の操作を許可)		
ポインタ	画面ロック	解除
	提出BOXへの送信	解除
ロック	みんなへの送信	ロック
	画面共有	ロック
↑	プリンタ使用	解除
閉じる		

スピードも質も上げて効率化 提出物返却

「オクリンク」は、紙と同じようにマルやコメントをつけられます。すぐにフィードバックができるうえ、学び合いの機会にもなります。

#業務効率化 #学び合い

茨城町立明光中学校 福住里絵先生

BEFORE

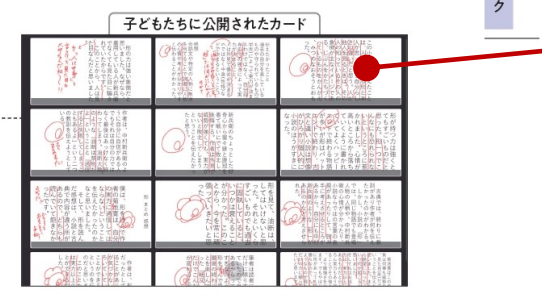
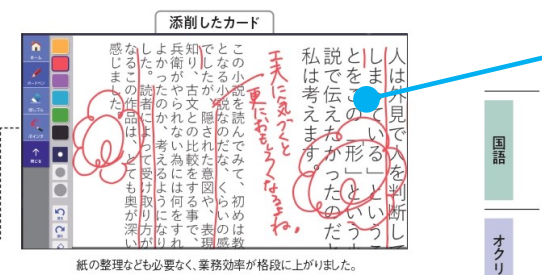
AFTER

- ・提出物の回収・配付に時間がかかる
- ・生徒はほかの子どもの提出物を見る機会がない

▶▶ 回収・配付以外のことに時間をかけられる

▶▶ 提出物で学び合いが可能に

- Step 1 **[振り取り]**
子どもたちは授業の感想や振り返りなどを「提出BOX」に提出。
- Step 2 **[添削]**
「提出BOX」でそれぞれのカードを開き、画面左上の(ふたばアイコン)をクリック。「ボードペン」を使って、線や文字を書き込む。
- Step 3 **[共有]**
添削後、画面右上にある「すべての提出物を子どもに公開」をオン。ほかの子どもの添削結果を参考にすることが可能に。
- Step 4 **[復習]**
ほかの人のカードにどんなコメントが入っているのか、どんな点に花丸がついているのかを見て、自分の考えを深めることができる。



後日、評価のための振り返りもしやすく子ども同士で刺激にもなります！

Hint

書きこむ際は、提出BOXの一覧画面ではなく、カードを拡大した状態にします。拡大画面下のボタンを使うと次の子どものカードが表示されます。

次のカードへ▶

Attention

カードを「MYボードにコピー」しても、カードに書きこまれた先生からのコメントはコピーされません。

ムーブノートで実施するなら

広場に出されたカードに対して、カードをタップして拡大せずにペンで広場に直接書き込むことで、同様の授業を実施することができます。この時、**広場の画面**をピンチアウトさせると書き込みやすくなります。





✧ 使用している主な機能 ✧

- ・名前の非表示
- ・拍手
- ・グループ

Hint

広場に出されたカードの「コメント」を押すと開く「伝え合いウィンドウ」から、誰が拍手を押したかがわかるようになっています。



▲「〇人が拍手しています。」の部分を押すと、拍手した人の名前が表示されます。

Attention

グルーピング機能を使用中は子どもの操作ができなくなります。

3 文法を「使って」定着 英作文プレゼン

学んだばかりの文法「I think that~」を用いて、英語で意見交流・プレゼンテーションを行います。単なる文法理解ではなく、英語を「使う力」を養います。

#相互評価 #学び合い

加古川市立陵南中学校
新井倫子先生

BEFORE

AFTER

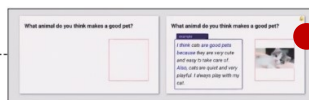
- ・正しい文法を意識しすぎてたくさん書くことが難しい
- ・教科書の文法理解だけでは単なる暗記にとどまってしまう

- ▶ 匿名、かつ正しさよりもしっかり表現することを重視。表現力が積みあがる
- ▶ 習った文法をすぐに使うことができ理解を深め応用できる

Step

1 [個別]

授業のはじめに、お手本となる文と子どもが記入するシンプルなカードを送る。授業の流れや無記名で提出することを伝え、「伝えるための英文」をつくるよう指示。子どもはインターネットで文法を調べたり、先生に質問したりしながら英作文を「広場」に提出。

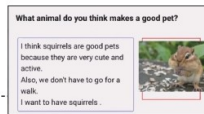


シンプルな絵と写真にすることで、英文に集中できる。「どんなペットがいいか？」がテーマ。

Step

2 [全体]

クラス全体で、「広場」で確認。子どもは自分がよいと思ったカードに、一人3つまで厳選して「拍手」をする。「拍手」が多いものをクローズアップ。

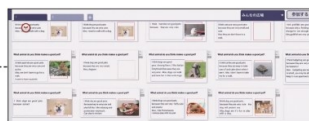


I think that~, because~, And~, Also~などを使い、最低5行書く。

Step

3 [グループ]

ペットの種類が分かれるように、先生がグループ分けして、英語で説明し、意見交換をする。使えるフレーズのヒントを板書し、子どもたちが会話を長く続けられるようにする。グループの代表者を決める。



完成する人が増えてきたところに提出させることで、ニガテな子も先に提出された英文を参考にできる。無記名なので、出しやすく、「拍手」をした理由を聞くなどする。

Step

4 [全体]

代表者をピックアップして、全体にプレゼンテーション。それを参考に、自分の英文を修正していく。自分で調べる習慣もついていく。



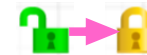
よく使われる単語の集計をすることも。



普段から日本語をなるべく用いない授業や指導を意識し、子どもたちが英語をツールとして使えるようにしたい！と考えています。

Attention

お手本のカードを間違えて編集したり、広場に出したりしないようにカード右上の鍵を使ってロックしておきましょう。



Attention

キーワード集計機能を使用中は子どもの操作ができなくなります。



オクリンクで実施するなら

見本のカードとテンプレートのカードを配付するだけで、同様の授業を実施することができます。
※提出BOXを「提出順」にして「氏名を非公開」に設定します。
※オクリンクは音声を録音して貼り付けることもできます。



✧ 使用している主な機能 ✧

・グループ

色・線の工夫で伝わりやすく表現 立式の考え方共有

4

文字式の導入で、色と囲みを使って考え方をまとめ、ほかの生徒の考えを説明させます。「ムーブノート」の「タブ」を切り替えることで、1コマの中で応用問題にも挑戦できます。

#直観的操作 #学び合い

能美市立辰口中学校
三輪裕輝先生



BEFORE

AFTER

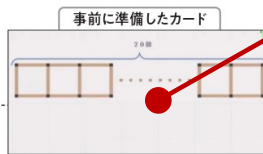
- ・言葉や文字で考え方を表すことが難しい生徒も
- ・ニガテな人は考える糸口が見つけづらい

- ▶▶ 色の工夫によって考え方をわかりやすく表現できる
- ▶▶ 先に提出した人の考え方を見てマネをするなど発展した学びに

Step 1

[指示]

「ムーブノート」で、考え方と式を書くシートを配付。同じものをプリントで2〜3枚配る。「ほかの人がシートを見ただけでわかるように」と指示をする。

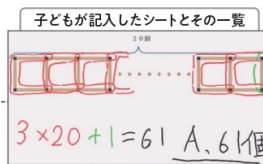


「マッチ棒で正方形を20個つくるときに、マッチ棒は何本必要か？」という問いに取り組む。

Step 2

[個別・ペア]

子どもは紙に色や囲みを使って考え方を整理。式を作成後、「ムーブノート」のシートに転記し「広場」に提出。ニガテな人は、先に提出されているものを見ながらつくる。提出後、隣席の人に自分のシートを見せ、説明する。



考え方が偏った場合は、早く終わった子に別の意見も出してもらおう。

Step 3

[全体]

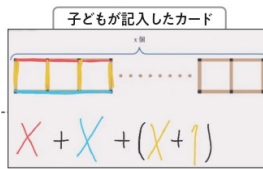
クラス全体で、考え方の種類を分類。それぞれの考え方について、書いた人ではない生徒に説明してもらう。



Step 4

[発展]

単元の本題である文字「x」個の場合の考え方をタブを切り替え、シートに入力、提出。20個の場合の考え方を見返すなどして、自分で説明できるようにする。



20個をx個に変えて、単元の本題を解いていく。

詳しくは Webでチェック!



「見ただけで考え方がわかる」ように表現し異なる考え方も説明してみることで、子ども自身の理解も深まっています!

25

Hint

カードを長押しするとカードのコピーができます。

コピー

Attention

グルーピング機能を使用中は子どもの操作ができなくなります。

Attention

同じ時間に異なる課題を出す際は別のシートに作成しておきます。(広場で別の課題と混ざることが防ぎます)



▲「+」を押してシートを5つまで増やせます

Attention

画像を「位置を固定」しておきましょう。



Attention

デフォルト設定では、子どもが広場にカードを出すと「見るモード」になるため、私のノートに戻ることができません。



▲見るモードではグレーアウトします。

ふたばアイコンをタップして、「作る」を選択することで、「私のノート」のタブがアクティブになり、カードの編集や提出ができるようになります。



オクリンクで実施するなら

同じ画像をカードに貼って、子どもに配付するだけで同様の授業を実施することができます。発展場面では異なる提出BOXに切り替えて提出させると良いです。

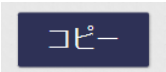


✧ 使用している主な機能 ✧

・グループ

Hint

子どももカードを長押しするとカードのコピーができます。



Attention

デフォルト設定では、子どもが広場にカードを出すと「見るモード」になるため、私のノートに戻ることができません。



▲見るモードではグレーアウトします。

ふたばアイコンをタップして、「作る」を選択することで、「私のノート」のタブがアクティブになり、カードの編集や提出ができるようになります。



Attention

グルーピング機能を使用中は子どもの操作ができなくなります。

5 単元導入時にニガテ意識払拭 考え方の分類

比例・反比例は小学生のときからニガテ意識を持った生徒が多い分野。単元に入る前の導入として、「ムーブノート」で楽しく考え方をグループ化することから入りました。

#意見交流 #学び合い

福岡市立田隈中学校
中村勇太先生



BEFORE

- ・ニガテ意識のある人は考える手がかりを見つけにくい
- ・考え方のパターンを複数もちづらい

AFTER

- ▶ ニガテでもほかの子の考えを参考に進める
- ▶ 複数枚のカード配付で
- ▶ たくさんの方の考えを見つけようと意欲が高まる

step

1 [授業前]

先生は考えと表・グラフを記入させるカードを作成し、複数枚送っておく。

step

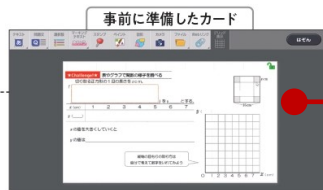
2 [個別]

各自で関数関係を見つけ、考え方や数値を記入できたら、「広場」に提出。カードは数枚持っているの、いろいろな考え方を出そうと意欲が出る。

step

3 [まとめ・全体]

先生は「広場」で、考え方の同じカードごとにグループ分けをする。それぞれの考え方について説明した後、比例・反比例の単元の学習に入っていく。



正方形の四隅を切って箱をつくる問題のカード。



yを「箱の高さ」とした場合の例(左)と「底面積」とした場合の例(右)。



「広場」でグルーピングし、考え方のパターンを整理する。

Attention

画像を「最背面に固定」にし、テキストボックスを「位置を固定」にしておきましょう。



Attention

画像をタップして、テキストボックスが見えなくなってしまうたら、カード周りのグレーの部分をクリックすると良いです。



オクリンクで実施するなら

同じ画像を貼り付けたカードを配付して提出BOXへ出すことで同様の授業を実施することができます。ムーブノートと異なり、グループ化の操作を子どもの提出中におこなっても子どもの操作を止めることがありません。

詳しくは Webでチェック!



得意な子はほかの人が思いつかない考えを出そうと頑張るなど、各自のペースで進められるのも魅力です。



✧ 使用している主な機能 ✧

・ペイント

Hint

選択肢を使って、想定される数「1」～「*」と「それ以上」をつけておくと、その後の集計で傾向がつかみやすくなります。

Hint

「同じ考え」「異なる考え」といった観点で拍手を押させると、他の人の意見を読む時の指針になり、その後意見ピックアップしやすいです。

このとき、広場に出されたカードの「コメント」を押すと開く「伝え合いウィンドウ」から、誰が拍手を押したかがわかるようになっています。



▲「〇人が拍手しています」の部分を押すと、拍手した人の名前が表示されます。

全体共有でつまづきを解決 図と説明から理解度確認

6

「体細胞分裂」について学習をした次の時間に、その復習を「ムーブノート」で実施。「分裂後の染色体の数は半分になる」というよくある誤解を解消するため、染色体の数を図解しその理由について記入してもらいました。

#一斉共有 #意見交流

横須賀市長沢中学校
程島綾香先生



BEFORE

- 習ったことが記憶に残りづらい
- 事象の背景・理由を説明することが難しい

AFTER

- ▶ 間違えやすいポイントが**視覚的に**記憶に残る
- ▶ 説明や比較をし人の説明を聞くことで**さらに理解が深まる**

Step 1

【授業前】

先生は、染色体の数の変化を記入させる図と説明欄を設けたカードを作成し配布。

Step 2

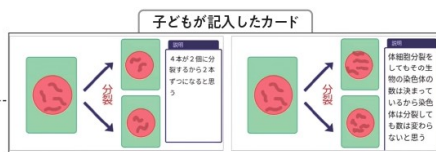
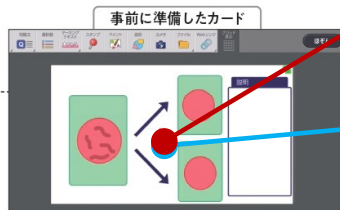
【個別】

子どもは、染色体の数を図の赤い丸の中にペイントで描く。また、その数にした理由を説明欄に記入後、「広場」へ提出。

Step 3

【まとめ・全体】

クラス全体で、カードを比較し、正しい染色体の数を考える。図を見て、自分と同じ考えや異なる考えの理由を読み、間違いに気づいたり理解を整理したりすることができる。



理科

ムーブノート

Attention

画像とテキストボックスを「位置を固定」しておきましょう。



Hint

小さな画像をいくつも貼るよりも、1つにまとめて貼る方法をおすすめします。

オクリンクで実施するなら

同じ画像を貼ったカードを子どもたちに配布しておくことで、同様の授業を実施することができます。オクリンクはカードを見ながら入力することができるので、自分が書きこんだ内容を確認しながら進めることが容易です。

詳しくは Webでチェック!



たとえ間違えても自分だけではない安心感があり図示によってしっかり知識が定着します。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・スライドショー
- ・提出BOX

7 時代の特色を再整理できる 人物調べとNO.1投票

単元のまとめで「オクリンク」を使いました。「この時代に最も影響を与えた人はだれか」を決める投票を行い、その時代への理解を深めました。

#一斉共有 #学び合い

BEFORE AFTER

校方市立第四中学校 佐納達平先生

- ・調べるだけ・発表するだけで印象に残りづらい
- ・人物名や出来事はずい暗記になってしまう

- ▶▶ 「投票」でゲーム要素も入れてより主体的に表現する
- ▶▶ 人物に焦点を当てることで知識を再整理できる

Attention

「画像は〇枚まで」と制限を設けると使い過ぎを防げます。(最大10枚です)

Attention

提出BOXは後から出したカードで上書きされる機能になっています。提出BOXは条件の数だけ「受付中」にしておきましょう。この時、操作ミス・トラブルを最小限にするために、BOX名をわかりやすく変更しておくといいです。



事前に準備したカード

P36～51、60～61

3-9. キーパーソンは誰だ!? (飛鳥～平安中期編)

目標
飛鳥時代～平安時代中期の重要人物の紹介を聞き、古代の日本の特色についてまとめることができる。

① 飛鳥時代～平安時代中期(P36～51)の期間で「キーパーソン(重要人物)」と思う人物を決める。

推古天皇	中臣鎌足	桓武天皇	藤原頼通
聖徳太子	天武天皇	坂上田村麻呂	紀貫之
小野妹子	持統天皇	藤原	清少納言
蘇我馬子	聖武天皇	空海	紫式部
蘇我入鹿	行基	菅原道真	など...
中大兄皇子	鑑真	藤原道長	

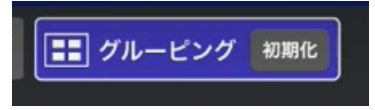
この授業の目標や、授業の流れも伝えておく。

子どもが提出したカード

人物は同じでも、着視点の違いなどを話し合う。

Hint

キーパーソンごとにグルーピングを使って分類しておく、ピックアップも集計も容易になります。



ムーブノートで実施するなら

1のシートは人物名と選んだ理由を書くカードを準備します。2のシートには、みんなの発表を聞いた上で再度選んだ人物を投票するカードを準備して、シートごとに「授業を開始」を押します。このようにシートごとにカードを用意することで同様の授業を実施することができます。



生徒が興味を持ちやすい人物に焦点をあてることでその時代の理解を主体的に深めることができます。



✧ 使用している主な機能 ✧

- ・コメント
- ・拍手

Attention

テキストボックスを使用して、課題文を入力すると、キーワード集計した際にその課題文に含まれる品詞もヒットします。
課題文は「問題文」を使用して入力しましょう。



Hint

問題文をを変更するだけで、どの教科でも活用できるカードなので、カードBOXに保存していつでも使用できるようにすると便利です。

Attention

コメントは、入力した子どもと先生以外削除できません。

伝わる書き方で対話が生まれる 話型テンプレート

ほかの人の意見にコメントをする際、「話型」をヒントとして与えることで、感想がひと言ではなく具体的にになります。

#意見交流 #相互評価

BEFORE

- ・感想が簡単なひと言のみになりがち
- ・子ども同士の話し合いに発展しづらい

AFTER

- ▶▶ 感想を書く**観点が広がり** 課題に対する**考えが深まる**
- ▶▶ 自然に**対話的な学び**ができるようになる

愛知県みよし市立南中学校 金原洋輔先生

Step 1 [授業前]

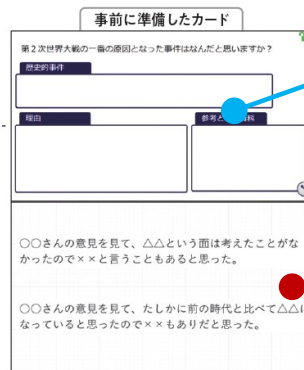
先生は、課題を書いたカードを作成。さらに、ほかの人への感想を書く際に参考になる「話型」を使った例文を書いたカードを添えて、子どもに送付する。

Step 2 [個別]

子どもは、自分の課題のカードを提出したら、「広場」でほかの人が書いたカードを見る。その際、先生が例示した話の型を参考にコメントを書き込む。

Step 3 [協働]

3~4回程度繰り返し話の型について言及したり、比較し理由を整理したりすることで、論理的に考え自分の意見を具体化することができる。



8

Hint

ラベルの文字が6文字以上になる場合は、「ラベル付きテキスト」ではなく「ラベルなし」を置いて、ラベルにあたる言葉は「問題文」を使うと良いです。

Attention

例文のカードを間違えて編集したり、広場に出したりしないようにカード右上の鍵を使ってロックしておきましょう。



詳しくは Webでチェック!



どの教科においても、自分とは異なる考えを持つ人とのやり取りは、多角的に自分自身の考えを練り直すことにつながると思います。

子ども同士のコメントでの対話
先生が話さなくても、対話が自然発生するように。



オクリンクで実施するなら

事例と同様のカードを作成・配付し、提出BOXに提出させます。一覧画面(提出BOX)でカードにコメントをつけることはできませんが、提出BOXで確認した相手にカードを送ってコメントを伝え合うことができます。